

第2回

「メディアからの健康情報を見極める」

令和6年10月19日(土)

講師：立正大学 文学部 教授 あさおか たかひろ 浅岡 隆裕 氏

人々にとって自身の健康は大きな関心事であり、そのための情報は欠かせないものとして多くの需要があります。かつては地域の医院、家庭医学の本といった限られたものだったが、現在はメディア、インターネットなどのサービスの発達により広く、多くの情報が得られるようになっていきます。一方でこれまで確実性のあった情報源が曖昧になり、信憑性に欠けていたり、不確実で実体のない情報が氾濫したり、人々の行動を誤った方向に導く危険性を持った状況になっていきます。

今回の講座では、確証バイアス、メディア・バイアスなどメディアに操作されがちな人の心理や、自動的処理により効率化ということで中身をブラックボックスのまま表面的に処理してしまう情報の受け取り方をしているということを改めて認識しました。

まずは、情報については出処を確認すること、複数の情報を検討すること、自分が考えて判断することを考えていきたいと思います。

(注記)

確証バイアス：自分があらかじめ持っている予想(仮設)にあてはまる事例ばかりに目を向け、記憶し、また事例を仮説に合わせて解釈してしまうこと。

メディア・バイアス：多種多様な情報の中から自分たちに都合が良いものを選びだし報道する、メディアによる情報の取捨選択のゆがみ。

自動的処理：色々と考える前にさっとおこなわれる効率的な情報処理。中身を吟味せずに、表面的な手ばかりで説得を受け入れるのかどうかを決める。



○参加者の感想・意見について（主なもの）

- ・ふだん、自分がなんとなく、思っていることも、もとをただせばけっこうあぶないことや、ほうっておくとあぶないことがたくさんあることに気づかせてもらいました。医者・薬にたよるだけでなく、自分で対処しようという気持ちがわいてきました。
- ・健康情報の読み解く上でのポイントについて知ることができた。
- ・夢中で生活している毎日ですが気づき考え、立ち止まる事が予防になると心得る事が為になりました。見きわ目が大切。